



一棟4 haのハウスを15棟併営。本写真は高設栽培（4 mレベルまで収穫）



高下駄のような道具を使用し高所収穫・栽培を行う。生産管理は1株単位（1平方フィート）



竹馬様の道具は、サンコスと呼称。管理型 3D 農業的。

農林水産省 国際部 GFVC官民連絡協議会用資料（写真
©シブヤ精機株式会社）

TPP発効後を見越して、対日双方向の農業関連インフラ高度化の需要が高まるものと推測（注：発表者個人の見解）。

1. 日本市場向けの農業関連インフラとともに、輸送コストを重視した動きが双方向で活性化する。（陸上の保冷ストレージや選果・梱包、輸送インフラの高度化要求）
2. 検疫の条件クリアとともに、流通市場からのニーズとして管理環境の整備（GGAP・HACCEP等）が輸出には必須となるのでは。技術は進んでいても品質管理目線がより重要となる。
3. 国内の従来主流である、低稼働な産地選果・専用選果では、設備投資への償却負担面を考慮した場合の、国際間競争は厳しい。国内では輸出入双方向型で物流アクセスを重視する消費地近郊臨海・臨空型の農業インフラの重要性が高まる可能性。
4. 選果・選別後の生鮮品と格別品国産農産物加工原料向けの相対価値が上がり、インフラ関連業や生産主体ともに、海外市場も合わせ見る能力（グローバルマーケティング力）が問われる。